

医師会だより



かかりつけ医

身体全体を診てくれる

年齢を重ねると、いろいろな病気が出てきます。病気にとって専門医で治療を受けることも良いですが、話をよく聞いて、総合的に身体全体のことを診てくれる医師を持つことも大切です。この役割を持つ医師が「かかりつけ医」です。

気軽に相談

かかりつけ医は患者さんとの付き合いの中で、普段の体調や家族関係などの社会的背景を熟知するようになります。このため体調変化に早く気づき診断、治療を行うことができます。日ごろから気軽に相談しておくことが肝心です。

地域の医療を知っている

がんや心臓病などの重大な病気を

「あなたの笑顔が必要です！」

大村市医師会潜在看護師研修事業

看護師への復職を考えている方、復職のための研修を受けてみませんか。

詳しくは大村市医師会まで。

は地域の医療に詳しいかかりつけ医師に相談し専門医を紹介してもらう方が得策ですし、治療が終わった後も、通院がしやすいので何かの折にも安心です。

かかりつけ医を中心に地域全体で医療

診療所の医師が適しています。

病院の医師は多忙でゆっくり対応する時間的余裕がなく、最近では、通院が2、3か月毎となり、軽微な体調変化を相談することが困難な場合もあります。また、今かかっている病気以外の風邪や腹痛などの誰もが日常起こりえる一般的な病気にも対応が困難です。専門医が本場に専門医の診療を必要としている患者さんに十分対応できるように、日常的な病気はかかりつけ医で診てもらおう方が重篤な病気を抱えている人にとってはあります。

たいことです。

かかりつけ医を中心として、専門医や救急病院、リハビリ病院、介護施設、在宅医療等がうまく連携し住み慣れた地域全体で医療を行うことがこれからの医療です。

名医より良医

疾患を治す名医よりも、患者さんの健康管理から医療、介護に至る相談に気軽に応じてくれる良医がかかりつけ医には向いています。鎌田貴先生の「良医の10の条件」を紹介いたします。かかりつけ医を探す参考にしてください。

- 一、話をよく聞く。
- 二、わかりやすい言葉で説明。
- 三、生活指導を重視する。
- 四、必要時に専門医を紹介する。
- 五、患者の気持ちを考える。
- 六、地域の医療や福祉を知っている。
- 七、医療の限界を知っている。
- 八、患者の痛みや辛さ、悲しみに共感してくれる。
- 九、他の医師の意見を聞きたいという患者の希望に応じてくれる。
- 十、シロクを与えずに真実を患者に伝えられる。

下剤で便秘になる？

昨今のコロナ禍で身体活動や運動量の低下のため便秘の方が増えてきています。慢性便秘症

治療ガイドラインでは便秘とは「本来体外に排出すべき糞便を十分量かつ快適に排出できない状態」と定義され、排便回数、便の硬さに加え、排便後の快適感にも言及しています。

便秘に長期使用で下剤の新たな作用機

題ありませんが、長期間漫然と毎日使っていると効果がなくなってきたりしてしまいます。漢方薬では、「大黄」という成分が、センナと同じものになりますので、自己判断では選ばずに医師に相談した上で使うことが大切です。市販の健康食品（ダイエット茶、便秘茶など）にもセンナの成分が含まれているものが見つかっており国民生活センターから注意喚起がなされています。

近年、新たな作用機序の下剤が登場し薬の選択肢が増え刺激性下剤を使わない治療も可能となってきましたので、医師に相談してみてください。

【医心伝心】

新型コロナウイルス感染者数が増加しています。油断することなく、上手に怖がり、感染防止に努めてください。